

## (2) 扇状地の地下水変動状況

### 地下水ポテンシャルの長期変動特性

扇状地扇頂部付近に位置する地下水位観測井の至近 18 年（1985 年～2002 年）の地下水位変動量を見ると何れも低下傾向にある。また、扇状地扇中央部に位置する各観測地点でも、長期的な地下水位低下傾向が認められる。

これに対し、扇状地扇端部～沿岸域射水低地に位置する観測地点では、長期的な地下水位上昇傾向が認められる。

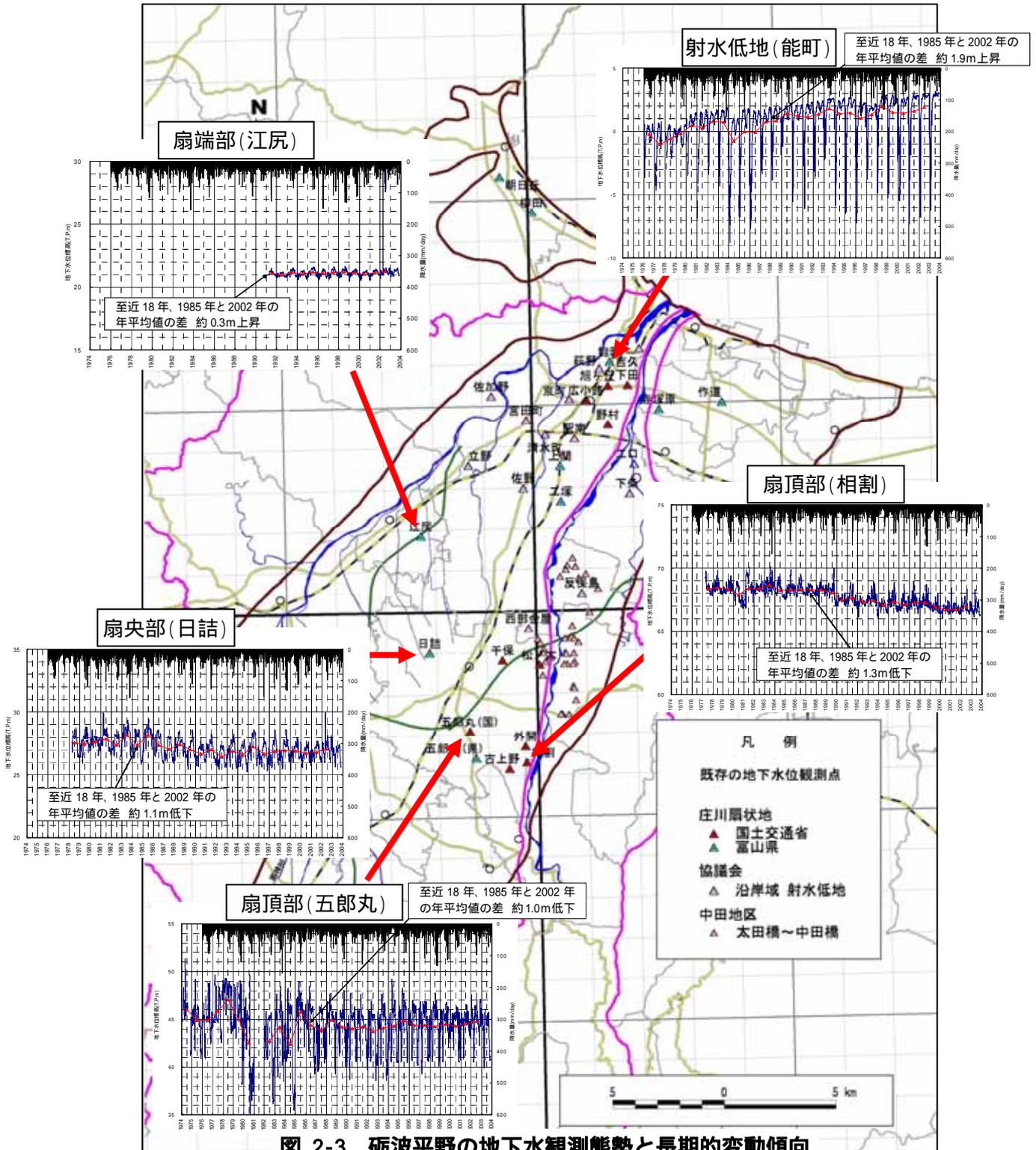


図 2-3 砺波平野の地下水観測態勢と長期的変動傾向

## 地下水ポテンシャルの季別変化

- (a) 扇状地扇頂部：5月と7月に最高水位、11月に最低水位を示すが、年間の変動量は1m弱～4mと場所によって異なる。5月の水位上昇は融雪に伴う河川水位の上昇や水田灌漑水の地下浸透、7月の水位上昇は梅雨時の自然涵養の増加によるものと思われる。
- (b) 扇状地扇中部：4月中旬から5月中旬にかけて明瞭な水位上昇を示し、その後8月までほぼ一定の水位レベルを維持するという特徴がある。この期間は灌漑期間とも一致しており、降水量の多寡に係わらず水田灌漑水の地下浸透による影響が大きいと考えられる。なお、灌漑期間終了後の地下水位は単調に低下し、殆どの観測地点では11月に最低水位を示す。
- (c) 扇状地扇端部：扇中部と同様に灌漑期間に相当する5月～8月に高い水位を維持する傾向が見られるが、年間を通した水位変動量は1m未満であり、扇頂部や扇中部の年間変動量に比べて小さくなっている。
- (d) 射水低地：地下水位は年間を通してほぼ一定であるが、消雪揚水稼働時期において著しい水位低下を示す。

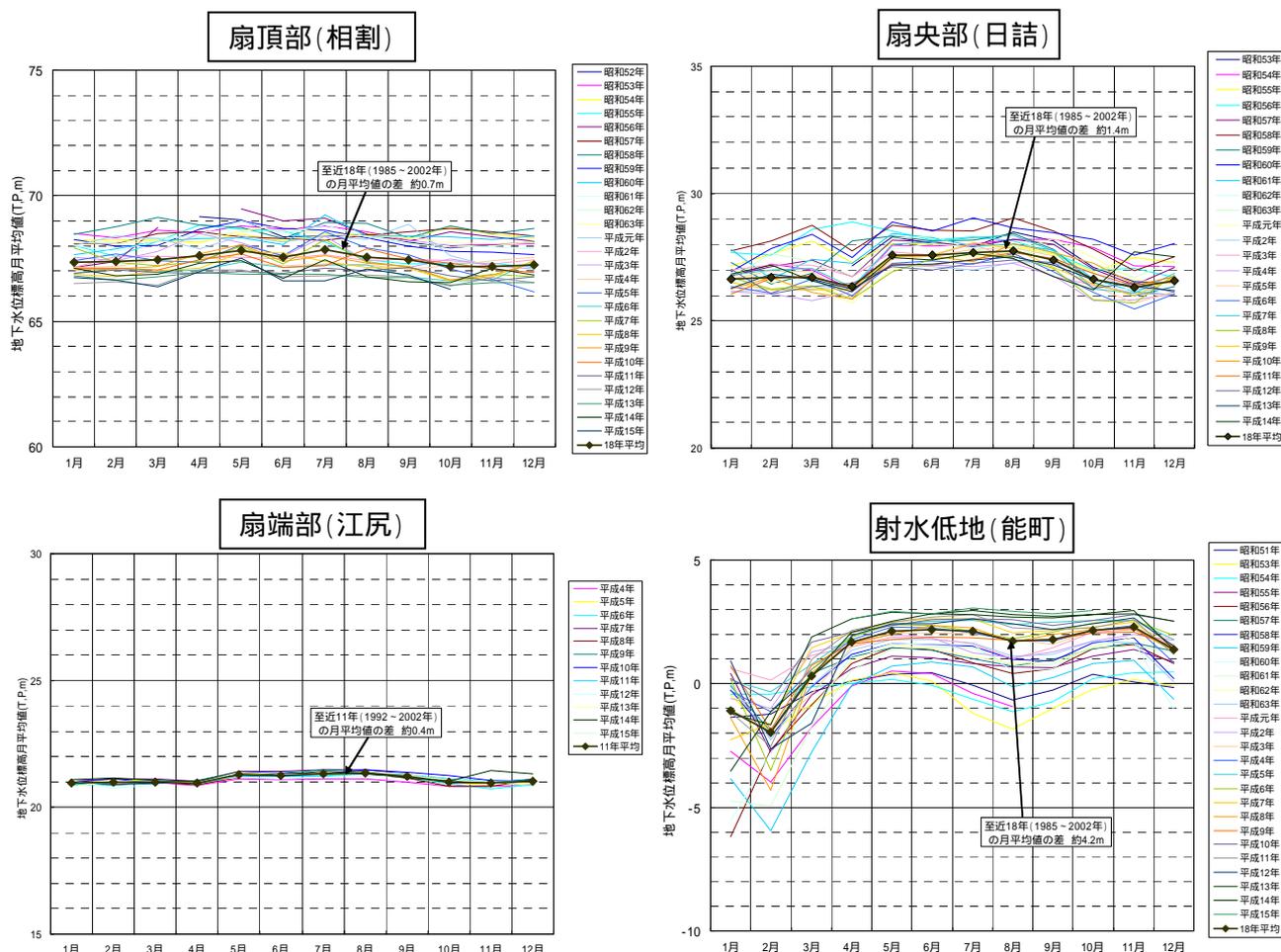


図 2-4 代表的観測井の地下水位季節変動